

森林環境教育の実践手法

四国森林管理局 四万十川森林ふれあい推進センター

自然再生指導官 松山 浩信

自然再生指導官 川村 春喜

1 課題を取り上げた背景

当センターでは、次世代を担う子どもたちに、森林の持っている様々な働き、森林と人との関わりなど森林の大切さや恵みについて理解を深めることが必要と考え、小学校学習指導要領の「主な森林・林業に関連する記述」に沿った「森林環境教育プログラム」を作成しています。

また、学校等の要請に応じて、児童・生徒を対象にした森林環境教育の出前授業を行っており、昨年度は34回実施しました。

今回、愛媛県松野町立松野西小学校の四年生と高知県宿毛市立小筑紫小学校の五年生を対象にした両校での取り組み内容とその実践手法について紹介します。

2 取組の経過

「森林環境教育プログラム」から取り組んだ内容

- ・「校庭等の樹木に親しもう」…樹木を観察後、樹木名板を作成し取付け
- ・「森林の働き」…「森林の大切な働き（下敷き・パネル等）」を活用した内容で、私たちの暮らしと森林の働きは深く関わっていることを学習
- ・「木に親しもうー木工教室ー」…木材の特徴について説明し、材料である木材の実物を観察させたのち、小枝や板・角材等を使った木工クラフト製作実習
- ・「空飛ぶ種子」…様々な植物の種子の散布について説明し、アルソミトラなどの色々な種子の実物を観察させたのち、種子の模型を製作し、実際に飛ばしてみる実習
- ・「水と土を育む森林を学ぶー森林の中で遊び、楽しもうー」…八面山ブナ林体験コース（国有林）において登山道での樹木学習、そして、ブナ

天然林で森林の働きやブナ天然林の価値等の「山の学習」、自然の中でネイチャーゲームで遊ぶ

- ・「炭焼き体験をして木の実や葉っぱ等を炭にしてみよう」…炭の特性について説明し、マツボックリやドングリなどの木の実、木の葉っぱなど身近な材料を使って、炭を作る過程を実習
- ・「雨水の土壌浸透実験」…治山模型を使って「森林のある山」と「森林のない山」を再現し、その効果等を実証し、森林の持つ保水の働きについて実験を通して森林の働きについて学ぶ

3 実行結果

両校で延べ4回～6回にわたり実施して、児童の感想文、教職員へのアンケート調査結果等から、森林環境教育の内容を児童が「理解出来た」、「水準は適当であった」、「講義時間は適当であった」、「授業と大いに関連する」…という結果が得られました。

4 考察

森林環境教育を重ねた実感として、前回より今回というように児童と交わす会話の中から森林の大切さや木材利用についての理解が深まったことです。今後とも学校等からの要請に応じて、各教科と関連付けた、児童・生徒の年齢に応じた出前授業を積極的かつ効果的に取り組む必要があると考えます。



雨水の土壌浸透実験・松野西小



PP を使用して森林教室・小筑紫小